

# 文字摺通信

第 78 号  
2024年12月15日  
発行:文字摺歴史文化社

歳忘れ増ページ特大号

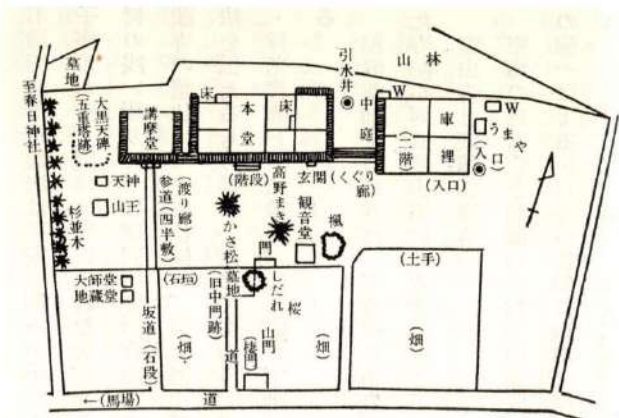
＝ハクタク探検隊その2＝

## 川俣春日神社を訪ねてきました

11月5日のハクタク探検隊報告その2です。東福沢薬師堂調査に引き続き、川俣春日神社を訪ねました。春日神社は小手郷の惣社でした。小手郷は信達地方の南東に位置し、川俣町・旧月館町・旧飯野町を含みます。

古代末から小手保は興福寺領であり、奥州合戦後頼朝から改めて興福寺に荘園として寄進し、春日神社が勧請されたといわれる。一の鳥居から境内に続く参道は長く、その東隣は川俣小学校であるが、そこにはかつて神宮寺があった。神宮寺跡からは11世紀の瓦が発見されており、春日神社の招来が平安末まで遡れる証左となっている。

境内の入り口に大きなケヤキが2本立っている。町の天然記念物に指定されている。樹高約34m、目通り幹囲5.2m、根廻り6.9mの見事な巨木である。



神宮寺復元想定図（明治初年渡辺弥七原図）  
菅野構之助蔵「川俣八景」により補足し作製した  
樹木の所在は正確の位置ではないが、建物配置はほぼ正しい

### これは珍しい母子狛犬

御供殿（長床）の前に一対の狛犬が番をしている。二人の女性隊員が「アラッ！子犬！」「可愛い！」の声。よく見ると、右の狛犬の前足の下、小さな子狛犬がいる。左の狛犬は普通の狛犬である。とすると左が父狛犬、右が母子狛犬であろうか。両親と子ども一匹、家族三匹で社殿をお守りしている。珍しく微笑ましい光景にこちらにも笑顔になる。

